

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向

令和4年度9月号

○ 概要

- (1) 令和4年度9月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同じ。）は6,429億円（伸び率（対前年度同期比。以下同じ）+2.2%）で、処方箋1枚当たり調剤医療費は9,443円（伸び率▲2.7%）であった。調剤医療費の内訳は、技術料が1,732億円（伸び率+5.7%）薬剤料が4,683億円（伸び率+0.9%）、薬剤料のうち、後発医薬品が915億円（伸び率▲0.9%）であった。（→P.4,5）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方箋1枚当たり薬剤料5,462円（伸び率▲4.7%）を、処方箋1枚当たり薬剤種類数、1種類当たり投薬日数、1種類1日当たり薬剤料の3要素に分解すると、各々2.75種類（伸び率+0.4%）、28.3日（伸び率▲0.0%）、70円（伸び率▲5.1%）であった。（→P.8,9）
- (3) 内服薬の薬剤料3,718億円（伸び幅（対前年度同期差。以下同じ。）+1億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは39 その他の代謝性医薬品の684億円（伸び幅+13億円）で、伸び幅が最も高かったのは42 腫瘍用薬の+52億円（総額491億円）であった。（→P.13~19）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	3,718 億円 (+1 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(684 億円)	21 循環器官用薬 (592 億円)	11 中枢神経系用薬 (550 億円)
0歳以上 5歳未満	16.6 億円 (+0.5 億円)	44 アレルギー用薬 (5.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (1.9 億円)
5歳以上 15歳未満	75.5 億円 (+4.2 億円)	44 アレルギー用薬 (26.2 億円)	11 中枢神経系用薬 (25.3 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(5.5 億円)
15歳以上 65歳未満	1,351 億円 (+26 億円)	11 中枢神経系用薬 (273 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(257 億円)	21 循環器官用薬 (181 億円)
65歳以上 75歳未満	853 億円 (▲47 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(188 億円)	21 循環器官用薬 (153 億円)	42 腫瘍用薬 (151 億円)
75歳以上	1,422 億円 (+17 億円)	21 循環器官用薬 (255 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(233 億円)	42 腫瘍用薬 (181 億円)

- (4) 処方箋1枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では9,443円（伸び率▲2.7%）で、最も高かったのは高知県（11,200円（伸び率▲6.3%））、最も低かったのは佐賀県（7,933円（伸び率▲3.7%））であった。

また、伸び率が最も高かったのは徳島県（伸び率+1.1%）、最も低かったのは高知県（伸び率▲6.3%）であった。（→P.31~32）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品割合】（→P.39）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^{注）}	82.9 %	+1.3 %
薬剤料ベース	19.5 %	▲0.4 %
後発品調剤率	78.9 %	+1.2 %
（参考）数量ベース（旧指標）	58.7 %	▲0.3 %

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.40~41）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	▲0.9 %	+9.1 % (0歳以上 5歳未満)	▲6.4 % (70歳以上 75歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.5 %	28.1 % (100歳以上)	10.8 % (10歳以上 15歳未満)
後発医薬品割合（数量ベース、新指標）	82.9 %	87.5 % (100歳以上)	76.6 % (10歳以上 15歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.46~50）

年齢区分	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1位	2位	3位
全年齢	778 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (235 億円)	11 中枢神経系用薬 (142 億円)	23 消化器官用薬 (81 億円)
0歳以上 5歳未満	6.0 億円 (+0.6 億円)	44 アレルギー用薬 (2.9 億円)	22 呼吸器官用薬 (2.0 億円)	61 抗生物質製剤 (0.4 億円)
5歳以上 15歳未満	12.5 億円 (+0.3 億円)	44 アレルギー用薬 (7.1 億円)	11 中枢神経系用薬 (1.7 億円)	22 呼吸器官用薬 (1.6 億円)
15歳以上 65歳未満	264 億円 (+1 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (61 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(27 億円)
65歳以上 75歳未満	178 億円 (▲13 億円)	21 循環器官用薬 (67 億円)	11 中枢神経系用薬 (23 億円)	39 その他の代謝性 医薬品(21 億円)
75歳以上	317 億円 (▲1 億円)	21 循環器官用薬 (101 億円)	11 中枢神経系用薬 (56 億円)	23 消化器官用薬 (41 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.55~60）

	全国	最高	最低
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,343 円	1,716 円(北海道)	1,136 円(佐賀県)
処方箋 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	▲5.6%	▲2.0 % (鳥取県)	▲8.7 % (福井県)
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	82.9 %	89.7 % (沖縄県)	78.8 % (徳島県)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	19.5 %	22.6 % (鹿児島県)	16.7 % (京都府)
後発医薬品調剤率	78.9 %	84.8 % (沖縄県)	74.5 % (東京都)
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	58.7 %	66.7 % (沖縄県)	55.0 % (東京都)

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 令和4年度9月現在の電算処理割合は、処方箋枚数ベース、医療費ベースともに約99%である。